

2014年(平成26年)2月12日 水曜日 (10)

ヒゲトラフクラゲ(仮称)

久保田 信

111



△
触手にひげの
あるヒゲトラ
フクラゲ (河
村真理子博士
撮影)

(京都大学准教授)

ヒゲトラフクラゲ(仮称)は、新種の可能性が大きいヒドロクラゲの一種だ。今回、世界で初めて紹介する。京都大学瀬戸臨海実験所に勤務する河村真理子さんが、田辺湾の奥で、プランクトン

ネットびきで以前に採集したが、その後さっぱり採れないままである。河村さんは採集した後、少しの間実験室で飼育して、無性生殖を観察した。その際に薬品固定していたものを、ごく最近になって撮影したのが今回の画像である。この個体は傘径0.5ミで、胃の部分にクラゲ芽を複数持っている。このような特徴は近縁種のコツブクラゲと同じで、クラゲからクラゲを無性的につくって自分のコピーを増やすのである。コツブクラゲと一見して形

態が異なっている点がいくつかある。和名の元になっているのがひげである。ある間隔をおいて、たくさん糸くずのようなものが束になっている。画像ではこぶのように見える。ひげがまとまって生えている部分は、生きている時には色が着いているのも大きな特徴である。4本の触手すべてにしま模様がよく見える。和名のように虎斑(とらふ)模様なのである。ただし、この個体は薬品固定後年月が長かったっているので、残念ながらしまの色の特徴が消失してしまっている。

なお、若い世代ではあるポリプの存在はコツブクラゲと同様に、未知のままである。